

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

さっちゃん家

日付 平成 20年 2月 4日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

母体の社会福祉法人は、老健、特養、在宅介護支援等すべての福祉介護事業を運営しているが、注目すべきは「友の会」を作って地域との関係を重要視していることである。そして、平成16年6月に、このような大きな法人がユニークなグループホームを開設した。私共の評価機関も4回の評価を続けさせていただいている中で、過去3回のグループホームのケアの状況と共にホームの運営を踏まえて、下記の基盤があってこそ、今日の姿があることが確信できた。

ホームを立ち上げる時に、地域とホームの立地を決める前に、その地域の集会や住民個々の家を訪ね、当時のホーム長と現ホーム長が「グループホーム、痴呆(当時の呼称)、生活する意味、地域との交流の必要性等々」を説明し、理解と協力を求めた。

ホームは、築70年という農家の古住宅を借り受け、改修して、デイサービスとグループホームを運営した。そのままの姿を出るだけ使い、段差のある生活空間を利用者が馴染める環境として使いこなし。

ホームを設立する前に、地域からの理解や協力が得られる土壌を作っておき、ホームを開設した事例は、岡山県の中でも数少ない地域密着型のホームであった。

これらの準備は、法人が地域を大切にしており、そこでホームを運営する担当者が、地域と共に育むホームでなければならないという信念があったからこそ、今日がある。

ホームの利用者は6人の定員でホーム長以下8人の職員が従事している。畳の間をリビングルームとし、一般の家庭と同じダイニングルームで生活している姿は、自然な家族の生活を思い浮かべる。利用者も自分のペースで、それぞれの人らしい生活をしている。職員は、そっと陰ながら支えているという感じで、何か行事をする時は、職員やら家族やら近所の人の区別がつかないくらいである。

利用者も過去3名の退職者があっただけで落ち着いている。100歳を迎えた人が2人居て、訪問調査日は1人の百歳の誕生祝いだっ。岡山県、岡山市からのお祝い、ホームでのお祝いを体験させてもらった。まだ元気な方で、これからもホームの一員で福寿を続けられるだろう。

ホーム長は19年度から交替したが、当初から前ホーム長と共にホームを立ち上げ、運営に協力してきた仲間で、常勤ケアスタッフから抜擢された温厚な人で、利用者・家族と職員からも信頼され、今まで以上に皆と協力して良いホームにしていくだろう。

来年度を目標に、デイサービスの建物を新築中で、その機会にグループホームも9人定員のホームに拡張される。ホーム長と職員が協力して、尚一層充実した利用者本位と地域密着型の生活が満たされるホームになるだろうと思う。

特に改善の余地があると思われる点

上に記した通り、しっかりした地域密着型サービスのポリシーは確立しているので、今後共に全く心配する点はないが、少ないとは云え、今回利用者が1.5倍に変わるので、今までの雰囲気や利用者の生活に少しの乱れもないよう十分な準備をしていただきたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：ホームの存在意義と価値については十分理解し、信念を持って毎日運営しているため、そのまま続けていってもらえば十分と思う。今後は改善というよりは、現在のホームの状態を維持充実していくように努める事を期待している。</p> <p>2、全体的に見て…：法人に向けてあげた「さっちゃん家」の今年度の方針は、安心安全な場所作り・一人ひとりの普通の暮らしの援助・職員の質を高める・家族との繋がり強化・地域との共生と繋がり強化を今年度の方針として掲げている。全職員はこれらを念頭に置いて、各自の目標を立て、実践方法を考えて達成に努め、各々が年度末には年間の成果を振り返り、結果を法人に報告することが定着しているようだ。それぞれが自分の目標に向かって取り組み、自己管理ができているので、意識が高くまとまりもある。</p> | | |

II 生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：古い家を改修してホームとして使っているため、段差も色々な所があり、利用者もそれを身体機能維持の材料として生活してきたが、来年度から改修され、バリアフリーの床になり、ホームも拡張される。</p> <p>2、全体的に見て…：築70年の民家を再利用したホームは、昔懐かしい外観で、正面に庭木、広い玄関から中へ入るとリビング、居室へと続く。リビングの食卓から周囲を見回すと、食器棚・冷蔵庫・流しと、まるで自分の家に居る様で、ここがグループホームである事を忘れそうだ。手を伸ばせば、すぐ相手に届き、皆の声も間近で聞こえ、表情もよく見える。すんなり向こうの会話にも仲間入り出来て、常に人の気配を感じる。訪れた人の第一声は「わあ！ここ普通の家だね」古くて、狭い、それが居心地の良さになっていた。</p> | | |

III ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人でできることへの配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |

III ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にした整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物の支援 | | |
| 23 | 認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：利用者本位、その人らしくをモットーにそれぞれの人の不足している所を満たしてあげるケアをしているが、利用者の高齢化や重度化していく過程で、まだケアの有り方には挑戦を続け、職員一人ひとりの意識を高めて貰う努力を続けている。研修や自己研鑽を大切にしている。</p> <p>2、全体的に見て…：元憲兵Aさんの挨拶は笑顔で敬礼。野菜作りの名人だった車椅子のBさんは、畑に出ると喜んで、座ったまま鍬をふるう。元料理屋の女将Cさんは、台所仕事が手早い。台所で動いていると、だんだん元気になってきて、男性職員を昔の使用人と錯覚して「ちょっとそれ、早う持って来て」と指図する事もあるようだ。その人の一番輝いていた時代をよく理解し、好きな事や得意な事を上手に引き出している。まだ出来る、人の上に立てると実感出来たら、やる気と生き甲斐が芽生える。</p> | | |

IV 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 災害対策 | | |
| 33 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 34 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 35 | 運営推進会議を活かした取組 | | |
| 36 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 37 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：グループホームとしては珍しく、法人の中で目標管理に挑んでいる。その中でもあるが、1:3の職員数は満たしているけれど、認知症ケアの本質を追求すれば、もっと充実した職員数の確保が必要と職員増を目指している。又家族との関係も、現在より一層綿密な関係を築いて行きたいと前向きに考えていく姿は素晴らしい。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームは母体法人の通所サービスを利用していた人の家だった。彼女の家=さっちゃん家に、地元の人は親しみ、よく遊びに来ていたようだ。主を亡くした家は、息子さんの協力でグループホームとして生まれ変わった。ホーム開設時には地域の人を集めて説明会を開いた。管理者と職員は町内の一軒・一軒に説明して回った。近所付き合いをして地域の中にある事に拘り、町内会にも入って溝掃除等出来る活動に参加し回覧板も廻している。地道な努力が結実し、稀に見る地域に根差したホームが出現し、現在の地域との繋がりを維持している。</p> | | |